

まちづくりの目標と取組（補足資料）

	取組項目	現状（魅力）	課題
「目標1」美しい自然のまちづくり	1 自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区は、美しく豊かな自然に恵まれた山紫水明の地であり、美しい山々と清らかな水の流れをはじめとする自然は、多くの区民が左京区の魅力として挙げている（区民アンケート（平成30年）） ・このような自然環境に多種多様な生物が共存する生物多様性の恵みにより、文化や産業が育まれるとともに、伝統的な食文化を彩る京野菜を栽培する農業が営まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化や人口減少により、農林業に携わる人が減少し、生業としての農業や、山林の維持管理が困難な地域が増えている。 ・昨今の台風・風雨による倒木・土砂災害により、自然環境への「脅威」や「負担」の意識が増加している。 ・シカの食害やサルの出没等、野生鳥獣による農林被害や生活環境への影響が生じている。
	2 まちの美化・景観	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区には市街地の中にも街路樹や社寺、公園の木々などの緑が豊かにあり、四季の移り変わりを感じることができる。 ・地域内の一斉清掃など、区民の自主的なまちの美化活動の取組が各学区で進められている。 ・多くの地域が、特に飲料容器や吸い殻等の散乱を防止する必要がある美化推進強化区域として指定されている。 ・清らかな水に恵まれ、釣り人等で川が賑わう季節があるなど、美しい山や川が存在している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生や外国籍市民等の多い地域では、多言語によるごみ出しルールの周知を進める必要がある。 ・観光客が多く訪れていた地域では、しばしばごみが散乱し、地域で清掃しなければならない状況にあったため、観光客のまちの美化に対する意識を高める必要がある。
	3 自然と調和した都市基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域には豊かな自然やそれと結びついた文化のある暮らしが営まれている。 ・「花背リゾート 山村都市交流の森」などの交流施設が整備され、北部地域と中南部地域の交流が進められている。 ・街路樹や公園の木など、身近に緑が多く整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域では、人口の減少が大きな課題となっており、集落としての機能を維持することが限界に近づきつつある集落も生じている。 ・大原や鞍馬、静原等の市街化調整区域や花脊峠以北の都市計画区域外では、自然環境の保全と地域の活性化との調和が課題である。 ・中南部地域の子どもが自然と触れ合う機会が少なくなっている。 ・高齢化や人口減少の進行等により、空き家が増えている。
	4 防災・消防	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域においては、自主防災組織により防災活動が実施されている。 ・平成30年9月の台風21号では、特に北部山間地域において、道路の通行止め、停電や通信障害の長期化により、生活に大きな支障が生じたが、困難に立ち向かう地域住民の団結力が発揮された。 ・毎年度左京区社会福祉協議会を中心に、地域団体、ボランティアグループ、障害者団体等が参加し、災害ボランティアセンターの円滑かつ効果的な運営のための研修会が開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動に関する住民意識の向上に取り組むとともに、行政と住民が協力して避難所での感染症対策を進める必要がある。 ・住民同士のつながりが弱まったり、独居の高齢者や日本語によるコミュニケーションが困難な外国籍市民等が増えるなど、地域防災を取り巻く環境に大きな変化が生じている。 ・各地域において、避難所運営の訓練の実施やペットの受入れ体制の整備が十分には進んでいない。

	取組項目	現状（魅力）	課題
「目標2」歴史・文化・学問のまちづくり	5 歴史資源・文化財・伝統行事	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区は、区内の至るところに、悠久の歴史や文化が息づいている。 ・世界遺産である賀茂御祖神社（下鴨神社）と慈照寺（銀閣寺）をはじめとして、著名な社寺など我が国有数の文化財が点在している。 ・区内各地域には、昔ながらの形で保存・継承されてきた伝統行事が数多くあり、国の重要無形民俗文化財である久多の花笠踊をはじめ、京都市登録無形民俗文化財の約半数を占める24件が区内に集中している。 ・京都東山の麓、白川の扇状地に位置する岡崎は、その自然、文化、歴史的特性から、平成27（2015）年に「京都岡崎の文化的景観」として国指定の重要文化的景観に選定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少と少子化、高齢化により、伝統行事を支えている保存会では、行事を受け継ぐ次世代の育成や技術の継承が課題となっている。 ・自然環境の変化や農林業従事者の減少により、文化財や伝統行事の材料となる自然資源の供給が困難になっている。
	6 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区には、豊かな自然、美しい景観、歴史ある神社仏閣など、誇るべき観光資源が数多くある。 ・慈照寺（銀閣寺）、南禅寺、鞍馬・貴船、平安神宮、大原などは、市内でも有数の観光地で、多数の観光客が訪れている。 ・近年は久多や別所の農家民宿に国内や外国から泊まりに来るようになっていく。 ・多くの人が国内外から左京区に来て、自然や文化などを体験している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年観光客の来訪に伴い、地域によっては民泊の増加やゴミ捨てるのマナー等、区民から生活環境や交通環境の悪化を懸念する声が出ている。 ・区内の多様な魅力に触れてもらうため、各地域に広く点在している観光資源を生かし、観光客の分散化を図ることが求められている。
	7 文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区には、北山や岡崎をはじめとする文化施設が集積した地域があり、近年リニューアルされた京都市京セラ美術館、京都市動物園、ロームシアター京都、京都府立京都学・歴史館のほか、2020年に開館25周年を迎えた京都コンサートホールや、国内に6つある国立美術館の一つである京都国立近代美術館、国の名勝に指定されている無鄰菴などがある。 ・各地域で文化・芸術の伝統や蓄積が受け継がれてきている。 ・左京区の文化・芸術は、季節感を重んじることで暮らしの中に溶け込み、区民はそれらの文化・芸術を楽しんでいる。とりわけ、自然と結びついた文化や食の文化は、左京区の暮らしの中で育まれた文化である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設のリニューアルを受けて、区民が文化・芸術を鑑賞・参加・創造する機会をより一層増やすなど、文化・芸術を通じた地域コミュニティの維持、活性化を図る必要がある。 ・価値観や生活様式などの変化に伴い、地域に根差し、暮らしの中に息づいてきた文化を未来へと受け継いでいくことが難しくなっている。
	8 大学のまち・学びのまち	<ul style="list-style-type: none"> ・左京区には、京都大学、京都工芸繊維大学、京都精華大学、京都芸術大学（旧名称 京都造形芸術大学）、京都ノートルダム女子大学、京都府立大学の6つの大学（大学院のみの大学を除く）が集積していることから、若者が多いことに加えて、外国からの研究者や留学生も多数暮らしている。 ・「大学のまち・左京」として、大学と地域の連携を積極的に行っている。 ・地域に入って熱心な活動を展開する大学の教員や学生も多く、大学と地域の結びつきはますます強くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代において誰もが生涯を通じて学び続けることのできる環境が求められている。 ・大学や学生の力を最大限に生かし、地域活動の担い手の育成やまちの課題解決に生かすことが求められている。 ・区内で多く生活する学生の自転車等の交通マナーやごみ出し等の生活マナーに対する意識が低下している。

取組項目	現状（魅力）	課題
<p>9 子どもはぐくみ</p>	<p>・子どもを健やかで心豊かに育むまちづくりを区民ぐるみ、地域ぐるみで実践し、「子育て・「共育」環境日本一・京都」を目指して、区役所の子どもはぐくみ室が、子育てに関する相談や手続きに対応している。 ・地域では、児童館や保育園等の子育て支援施設が中心となり、区役所やその他関係機関と連携し、親子の居場所づくりに取り組んでいる。</p>	<p>・近年の家族規模の縮小や地域社会における人間関係の希薄化により、子育て中の親が孤立しやすい状況となっており、精神的な負担感や不安感が増大している。 ・児童虐待、貧困、発達障害など、子育ての課題が多様化している。</p>
<p>10 健康長寿</p>	<p>・大学生や若い世代、孤立しがちな壮年期の男性、健康に関心が低い層も対象とした健康づくりを展開している。 ・左京区独自の「左京健康なまちづくりプロジェクト」や「認知症にやさしい地域づくり部会」において「健康長寿のまち・左京」の実現と地域包括ケアの充実に向け、医療・福祉・行政・民間機関・地域住民が連携し先駆的な取組を行っている。</p>	<p>・健康への意識は区民の間でも差があり、意識の低い層に対して健康意識の醸成が必要である。 ・高齢化の進展に伴い、増加する認知症や一人暮らし、高齢者のみの世帯、そして「8050問題」のように複合的な課題を抱える世帯に対し、行政、関係機関、地域住民等が連携して、課題が深刻化する前に支援につないでいくことが必要である。 ・生活の変化によって生じる健康課題（運動不足、ストレス増大、孤立等）への対策が求められる。</p>
<p>11 障害者福祉</p>	<p>・左京区は、これまで地域で福祉に取り組む意識が受け継がれており、また、医療機関や福祉関係事業所などの社会資源が多く、障害のある人への支援が積極的に行われている。</p>	<p>・障害福祉施策が難しくよくわからないという方も多い。 ・支援を必要とする方の地域における孤立化もある。 ・障害のある人もない人も、すべての人が地域で安心して生活するための、身近な地域での交流などの関係づくりが少ない。</p>
<p>12 地域コミュニティ・安心安全</p>	<p>・左京区域は広大で、地域が育んできた歴史や文化が多様であり、地域ごとに自治会や各種団体等、様々な組織による多様な活動が行われている。 ・地域住民や学校、警察、消防等が連携しながら、すべての学区で安心・安全のまちづくりを進めており、犯罪の認知件数、交通事故発生件数ともに減少傾向にある。 ・各学区の学区民体育祭などを通して、地域コミュニティの強化が図られている。 ・左京朝カフェ、盆踊りイベントなど、新たな出会い、交流によるまちづくり活動の芽が生まれている。</p>	<p>・居住形態や生活環境の変化、少子化、高齢化、人口減少の進行、新型コロナウイルス感染防止対策に伴う地域行事の中止や規模縮小により、地域活動に参加する住民や担い手が減少し、地域力の低下が危惧されている。 ・学生が多いことから自転車利用者が多く、自転車盗が課題となっている。 ・訪日外国人へのマナー啓発や、特殊詐欺被害の防止が必要となっている。 ・若者や外国籍市民等も多く暮らしており、多様な区民が互いを尊重しながら交流できる環境づくりが求められている。</p>